

CHAPTER 01

第1章 はじめに

掲載許可を得た鑑定例です。個人情報と性別が特定される表現を除き、内容の意味を保って掲載用に再構成しています。星の配置と解釈はこの相談に対するもので、すべての方に当てはまる結果ではありません。

パートナーを愛しているからこそ、楽しく過ごせた時間に希望が生まれ、喧嘩になると「もう戻れないのだろうか」と深く落ち込む。その行き来が、長い間続くふれあいへの願いと重なっているのですね。会話や外食ができる喜びも、身体で親しさを感じられない苦しさも、どちらもあなたにとって大切な現実です。

寄せてくださった言葉から伝わるのは、単に二人の関係の形を保ちたいということだけではなく、愛しているこの人と、もう一度ふれあいたいという願いです。生まれたときの月の星と、今回の問いを寄せた瞬間の星を重ね、その願いを消さずに、これからをどう選んでいけるかをお伝えします。

CHAPTER 02

第2章 今のあなたへ、星からの導き

パートナーを愛することと、ふれあいを願うあなたを大切にすること。その両方を、これからの二人の関係の形に含めてよいのです。

今回の星から届けたいのは、「以前に戻れると信じて、もっと耐えてください」という言葉ではありません。あなたの愛を、期待と落胆の間だけに置かず、二人で育てられる関係へ向け直すこと。そのために、あなたが望む親密さも、きちんと扱われる場所をつくることです。

出生の月があるチトラーは、設計や創造、完成へ向かう性質を持つ星です。大切なものに心を込め、目に見える形にしたいという象徴があります。あなたの相談に重ねるなら、「愛している」という思いが心の中にあるだけでなく、ふれあいとして行き来する関係を求める願いに響きます。

一方、申込み時の図では、心の動きを表す月が、言葉や理解を表す水星と、蟹座の同じ度数に並んでいます。二つがあるのは、家庭や心の居場所を意味する第4室です。ここでは、感情と言葉がとても近いところにあります。今回の問いに即して読むと、ふれあいの有無だけを切り離して解決するよりも、「この関係の中で、自分はどんな思いで暮らしているのか」を、言葉にして置ける場所が大切になります。

この第4室には、理解を広げる木星もあります。月と木星のナクシャトラは、養育や成熟を象徴するプシャです。育てるという働きは、一度の楽しい外食や、一度の話し合いで完成するものではありません。相手がどう感じているか、自分は何を必要としているかを、互いに扱える関係を重ねていくことです。今の星には、親密さを「その日の雰囲気」だけで測らず、二人の間で育てるものとして捉える導きがあります。

さらに、この図では、自分自身への向き合い方を示す第1室の支配星・火星が、言葉や働きかけを表す第3室にあります。パートナー関係を示す第7室の支配星・金星は、調整や日々の課題を表す第6室です。金星のこの位置は、関係の中の喜びが、努力や「何とかしなければ」という思いに覆われやすいテーマとして読めます。

ここで大切なのは、火星のいる双子座も、金星のいる乙女座も、水星が支配する星座であることです。つまり、自分から働きかける力と、関係を整えたい力の両方が、先ほどの、月と並ぶ水星へつながっています。その水星も、月が支配する蟹座にあります。配置のつながりをたどると、今回の問いは、相手を動かすための説得より、心を置き去りにしない伝え方へ向かっています。

あなたがより努力すればパートナーが応じる、という読みではありません。むしろ、関係をよくする努力の中に、あなたの切実な思いまで埋もれさせないことが重要です。ふれあいを望む心を、喧嘩の勢いで訴えるだけでも、楽しい時間を壊さないよう胸にしまうだけでもない。落ち着いて扱える、二人の関係の大切な話題にしていく方向です。

星から、パートナーの愛情の有無や、性的な気持ちに戻るかどうかは判定できません。また、会話や外食を楽しめることと、性的なふれあいを望むことは、同じではありません。そのうえで、今ある交流を無意味にせず、そこにあなたの願いも載せていく道があります。

生まれた星の「大切なものを形にする力」と、申込み時の星の「心を言葉にして育てる力」。この二つを重ねて、私はこう読みます。あなたが一人で二人の関係を完成させるのではなく、あなた自身も含まれた二人の関係の形を、二人に問いかけてよい。星が後押ししているのは、その誠実な一歩です。

CHAPTER 03

第3章 生まれた星が語る、あなたの願い

出生時刻に幅があるため、評価した範囲で共通する配置を読みます。この範囲では、月のナクシャトラはチトラーで共通しています。ここでは、その確かめられる星の性質から、あなたの願いを見つめます。

チトラーの設計や完成という象徴は、単に理想が高いという説明では収まりません。大切なものについて、「それがどんな形なら、自分は本当に満たされるのか」を感じ取り、その形へ心を注ぐ性質として読むことができます。関係においては、言葉、時間の過ごし方、身体の距離など、具体的ななかかわりを通して愛が伝わることに意味を見いだしやすい星です。

あなたは、ずっとふれあいを求めていること、そしてパートナーを愛していることを書いてくださいました。その二つを重ねると、身体の欲求だけでなく、「愛しているこの人と、近さを分かち合いたい」という願いも含まれているのかもしれません。性の願いを、愛情より低いものとして扱う必要はありません。反対に、すべてを愛情の確認だけで説明して、身体そのものが求めるものを小さくする必要もないのです。

なぜ、この人とのふれあいなのか。その一番確かな答えは、星が作る理由ではなく、あなた自身が書いた「パートナーのことを愛している」という言葉にあります。楽しく話せると希望が戻るという記述からは、関係の名前だけでなく、パートナーと過ごす時間そのものが、今もあなたの心に届いている様子がうかがえます。

チトラーの象徴は、その思いに「愛があるなら、形も大切にしていよ」という言葉を添えます。パートナーであり続けることと、望んでいる親密さがあることは、同じではありません。会話があるのだから十分だと自分を納得させることも、ふれあいがいないのだからすべてが無意味だと切り捨てることも、あなたの体験全体を表してはいないでしょう。

ただ、形を大切にする力には、心にある理想の形との違いが、痛みとして強く感じられる面もあります。「前に戻れたら」という願いが中心になるほど、楽しいひとときが回復の兆しに見え、喧嘩がその希望を壊す出来事に感じられることもあるでしょう。これは、あなたが間違っって受け取っているという意味ではありません。望んでいるものが大切だからこそ、日々の出来事が、その実現に結びついて見えやすいのです。

この星の創造性を、過去を再現するためだけに使わなくてもよいのだと思います。今の二人が、何を望み、何なら心地よく、何には難しさを感じるのか。そこから、新しく親密さの形を考えることにも、その力を使えます。

もちろん、その形をあなた一人で設計することはできません。あなたの願いとパートナーの意思が、ともに入る余白が必要です。完成を急がず、二人が手を加えられる形へ。それが、生まれた星のよさを、今回の導きにつなげる使い方です。

CHAPTER 04

第4章 その願いと、今の迷いのあいだで

楽しく話せたときに「また前に戻れるかもしれない」と思うことには、今もパートナーとの間に喜びがあるという根拠があります。その喜びを、希望を持ってしまう原因として否定しなくてよいのです。

けれども、その時間だけでは、パートナーが身体的な親密さをどう考えているかまでは分かりません。同じように、喧嘩が起きたことだけで、これからの関係全体が決まるわけでもありません。あなたが経験しているのは、確かな喜びと、確かめられていない見通しが、重なっている状態なのだと思います。

そのため、一日の雰囲気が変わるたびに、これからへの希望まで大きく揺さぶられやすいのでしょう。「今日は楽しかった」という喜びを、そのまま受け取れること。そして、ふれあいについての見通しは、別に二人で扱えること。この二つが育つと、楽しい時間に未来のすべてを託さなくてよくなります。

申込み時の金星は、工夫や調整を意味するハスタにあります。この象徴を今回の問いへ重ねると、関係のために手を尽くすよさと、親密さまで努力で作り上げようとする難しさの両方が見えます。会話を楽しくする、喧嘩を減らす、過去の言動を省みる。それぞれに意味はありますが、それを積み上げれば必ず性的な関係に戻る、という交換にはできません。

過去のあなたの言動が原因で、パートナーにそういう気持ちになったようだ、と書かれています。それがパートナーから明確に伝えられたことなのか、あなたが様子から感じていることなのかは、今回の文章だけでは分かりません。もし具体的に傷つけたことがあるなら、そのことへの理解や謝罪、言動を変える責任は大切です。けれども、その責任を引き受けることと、あなたが今の苦しさを語ってはいけないことは別です。

謝罪や改善は、ふれあいを得るための代金ではありません。また、過去への責任があるとしても、これからの親密さについて二人で考えたいと願うことまで、取り下げなくてよいのです。

パートナーには望まない性的な行為を断る自由があり、あなたには、ふれあいのない関係が苦しいと伝え、今後の暮らし方を考える自由があります。どちらか一方を消すことなく、その両方があるところから、二人に可能な関係を見つめる必要があります。

あなたが今すぐ、パートナーへの思いを弱める方向へ進む必要はありません。相談に書かれているのは、愛している人とのふれあいを求める願いです。まず、その願いが二人の間でどう扱われるかを確かめる道が、今回の星の読みにつながります。

同時に、長い間続いている苦しさを、もう少し我慢すればよいという言葉で済ませたくはありません。関係のための努力が、あなた一人の課題になっていないか。親密さについて一緒に考える意思が、二人の間にあるか。これから目を向けたいのは、あなたがどれほど強く愛せるかではなく、二人でどのように向き合えるかです。

CHAPTER 05

第5章 星が照らす、これからの道

今のあなたに最もつながるのは、「前に戻れるか」を日々の雰囲気から読み取る道ではなく、これからの親密さを、二人で考えられる関係へ進む道です。

ここで目指すのは、すぐにセックスを再開する約束ではありません。あなたにとってふれあいがどんな意味を持ち、その不在がどれほど苦しいのかを知ってもらうこと。そしてパートナーが、今の親密さや、これからの関係について何を望んでいるのかを聞けることです。互いの希望が同じでなくても、違いを話題にできるところに、二人で選ぶための土台ができます。

出生月の星座は、評価範囲内で天秤座に確定しています。そこを基準に申込み時の星を数えると、月と水星などが集まる蟹座は10番目、金星のいる乙女座は12番目に当たります。これは出生のハウスではなく、出生月から見た位置です。象徴的には、内側にある思いを現実の取り組みに移すことと、親密さに伴う私的な願いや、注ぎ続ける負担を見つめることが並びます。

申込み時の図全体が示した「心を言葉にする」という方向に、この照合は、もう一つの意味を添えます。胸の中で希望を持ち続けるだけでなく、その願いを、実際の二人の関係の課題として扱うことです。そして、関係を大切にするために、あなたが何を注ぎ、何を受け取れているのかも見てよいのです。

もし二人とも、親密さについて考えていきたいという意思を持てるなら、以前と同じ関係を急いで取り戻すより、今の二人にとって望ましいかわりを探すことができます。性的なこと、性的ではないふれあい、一緒に過ごす時間。それらを、必ず次の段階へ進むための順番にはせず、それぞれについて望みや境界を話せる日常です。

ふれあいが増えることだけでなく、難しいときにも互いを責めず、希望を言葉にできることが、その道で育てたい親密さになります。二人だけでは話すたびに喧嘩になるなら、双方が同意したうえで、パートナーとの関係や性の相談を扱う専門家の支えを借りる選択もあります。それはパートナーを説得してもらうためではなく、二人の言葉を安全に置ける場をつくるためです。

一方で、パートナーが今後も性的なふれあいを望まないと伝える場合や、この問題を一緒に考えること自体が難しい場合には、別の検討が必要になります。愛しているからこそ、すぐに気持ちを変えられるとは限りません。それでも、「いつか戻るかもしれない」という期待を、暮らしの唯一の支えにしない方向は選べます。

そのときは、パートナーとして続けるうえで自分に必要なもの、受け入れられること、受け入れ続けるのが難しいことを、個別の相談の場などで整理してよいのです。関係への期待を小さくすることも、暮らし方や距離を見直すことも、パートナーへの愛が偽物だったという意味にはなりません。

今回の星は、どちらの結論も先に決めていません。後押ししているのは、あなたの願いを存在しないものにせず、相手の意思も確かめながら、現実生きられる形へ進むことです。その過程を経て選ぶ未来は、毎日の雰囲気ですべてを預ける未来とは違ってきます。

CHAPTER 06

第6章 その言葉を力に、選べる一歩

まず一つ、選べる一歩があります。ふれあいを求める場面や喧嘩の最中とは別に、これからの親密さについて話す時間を持てるか、パートナーに尋ねることです。

これから使う言葉の例としては、次のように伝えられます。

「私はあなたを愛しているし、一緒に楽しく過ごせる時間もうれしい。その一方で、長くふれあいがないことが、とても苦しい。応じるよう求めるためではなく、これからの二人の親密さをどう考えているか、私の思いも伝えて、あなたの思いも聞く時間を持ちたい」

その場で答えや約束を得ることを、目的にしなくてよいのです。話すことに応じるか、別の時間や方法なら可能か、その話題自体が難しいのか。まずは返ってくる言葉を、そのまま受け取ってください。

あなたが選べるのは、願いを明確に、要求や引き換え条件にせず伝えるところまでです。その先を二人で考えられるかどうかは、二人の意思が必要になります。

この一歩は、愛を試すためではありません。パートナーを大切にしているあなたの中に、ふれあいを願い、苦しんでいるあなたもいる。その全体で、これからの二人の関係に参加するための一歩です。

CHAPTER 07

第7章 迷ったときに、立ち返る言葉

パートナーを愛することと、ふれあいを願うあなたを大切にすること。その両方を、これからの二人の関係の形に含めてよいのです。

楽しく過ごせた日は、その喜びを受け取ってください。それを、未来が元どおりになる証拠にまで育てなくても、その時間の価値は失われません。そして、ふれあいたいという願いも、別に大切にしてください。

生まれた月のチトラーが持つ、思いを形にする象徴。申込み時の月と水星が示す、心を言葉にして居場所を育てるつながり。この二つの読みは、あなた一人が黙って二人の関係の形を支えるよりも、あなたの思いも入った関係を、二人に差し出すことを後押ししています。

あなたが愛する人との関係を大切にしたいと願うように、星もまた、あなた自身の願いを大切にする道を、力強く後押ししています。

ふれあいを望む心を置き去りにする必要はありません。あなたの声も、その愛の中に置いてよいのです。

迷ったときは、「私の願いも、この愛の中に置いてよい」という星の導きに、何度でも立ち返ってください。